

巻頭言

あたかも一身にして多生を経るが如く 一人にして多身あるが如し 然し

We Have Lived Multi Lives, as It Were; We Unite in Ourselves
Multi Completely Different Patterns of Experience. However.*

一般社団法人 エネルギー・資源学会 編集実行委員会 副委員長
京都大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻 教授



吉田 英 生 (E-mail: sakura@hideoyoshida.com)

平成23年あるいは西暦2011年の年頭ということで、エネルギーと資源さらに情報に関連する歴史を振り返ってみたいと思いました。そこで、全くのわたくし好みで重要事項を取捨選択し、しかも現在から遡った年数を加えてみたのが右側の年表です。「鉄は産業の米」とも呼ばれますから、本格的な製鉄が始まったほぼ300年前の英国のDarbyを年表の始点としました。300年というのは、1世代を30年とするなら10世代に相当しますが、1個人の人生を80年とするならたった4倍にも満たない短い時間です。そのような短時間に、人類はよくもまあこんなにも進歩したものだという感慨を禁じ得ません。実際、この原稿の一部も、京都と東京との間を文字どおり矢より速く駆け抜ける東海道新幹線のシートにもたれながら、ときに美しい青空や富士山を眺めてうっとりしながら、ときに手元にない情報はインターネットで調べながら、パーソナルコンピューターに向かって打ち込んでいるのです。その人生における体験や知覚し利用できる情報の豊かさたるや、本誌2002年3月号の書評でもご紹介しました森本哲郎著『文明の主役－エネルギーと人間の物語』（新潮社、2000年）にも引用されていた福沢諭吉著『文明論之概略』中の「あたかも一身にして二生を経るが如く、一人にして両身あるが如し」の言葉以上ではないでしょうか。現代のわたしたちは、「あたかも一身にして多生を経るが如く、一人にして多身あるが如し」とさえ言い換えられるのではないかと思います。

「然し」です。そのような文明を実現し享受する現代のわたしたちが、昔の人たちと比べて賢く立派になったか、そしてなによりも幸せな人生を送っているかと問うならば、答えは簡単ではありません。昨今のうんざりするような国内政治の混迷や国家間や民族間の争いはいうまでもなく、自戒を込めていうと、わたくし自身そしてわたくしの周囲の教育・研究の現場も混乱していることを否定できません。

いったい何が原因でしょうか？ おそらく、人類の大部分が、好むと好まざるとにかかわらず、各個人の容量をはるかに超えたものを追ってあるいは追わされていて、ひとつひとつのものごとに対して、十分に受容し思考し行動する時間を持っていないからではないでしょうか。およそ「一刀三礼」などとは対極にある姿勢で、多くのことが考えられ語られ行われ、その結果として社会がますます複雑にかまびすしくなっていく悪循環が、多くの局面で見られるように思います。

このような時代にあって、良識の府として世を先導することが求められるのが各種の学会です。とりわけ本会は人類の文明を支えるエネルギーと資源と環境に直接関係しています。「サステイナブル」という語を表面的に闇雲に繰り返すだけでなく、人類を過去から未来に向けて真剣にみつめることからすべての活動を出発できればと願います。そして、当編集実行委員会にとっては、「平凡な真理を非凡な表現で語った（丸山真男、岩波新書325、1986年より）」『文明論之概略』のように時代を超える重みのある記事や書を発行してゆくことがなよりの使命であると、決意を新たにします次第です。

年(前)	事 項
2010	1 小惑星探査機「はやぶさ」
1989	22 Berners-Lee: World Wide Web
1969	42 Apollo11 (月着陸) / Boeing747
1968	43 霞が関ビルディング
1964	47 東海道新幹線
1961	50 Vostok (Gagarin宇宙飛行)
1960	51 Maiman: LASER
1957	54 Sputnik (ソ連人工衛星)
1948	63 Bardeen・Brattain・Shockley: トランジスタ
1946	65 ENIAC (コンピューター)
1942	69 ABC (コンピューター)
1942	69 Fermi: Chicago Pile 1
1939	72 Ohain: ジェットエンジン機
1937	74 Golden Gate Bridge
1931	80 Empire State Building
1930	81 Whittle: ジェットエンジン特許
1926	85 高柳: 電子式テレビ受像機
1912	99 Titanic号沈没
1908	103 Ford: Model T
1905	106 Einstein: 特殊相対性理論 (1916: 一般)
1903	108 Wright兄弟: Wright Flyer
1885	126 Deimler: 二輪自動車 / Benz: 三輪自動車
1884	127 Persons: 蒸気タービン
1882	129 Edison: Pearl Street照明 / 銀座アーク灯
1876	135 Otto: ガソリン機関
1876	135 Bell: 電話
1875	136 Verne: 「神秘の島」(水素社会予言)
1875	136 福沢: 『文明論之概略』
1872	139 新橋・横浜鉄道 / 横浜ガス灯
1859	152 Drake: 石油採掘
1843	168 Joule: 熱力学第1法則
1825	186 Stephenson: 鉄道 (Stockton-Darlington)
1824	187 Carnot: 熱力学第2法則
1811	200 Luddite運動 (機械破壊: 産業革命反動)
1800	211 Volta: 電池
1766	245 Cavendish: 水素発見 (1983: Lavoisier: 命名)
1765	246 Watt: 蒸気機関改良 (復水器分離)
1712	299 Newcomen: 蒸気機関 (鉱山排水)
1709	302 Darby: コークス炉製鉄

*英文題目は、An Outline of a Theory of Civilization (The Thought of Fukuzawa, vol.1) Fukuzawa Yukichi, Revised Translation by David A. Dilworth and G. Cameron Hurst, III. 慶應義塾大学出版会 (2008年)の英訳から、その中の“two”を“multi”に変更させていただきました。